

平成 21年 3月 31日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18520034
 研究課題名（和文）ベルリン・トルファン・コレクションの漢語版本の総合研究
 研究課題名（英文）A General Study of the Chinese Woodblock Prints in the Berlin Turfan Collection
 研究代表者
 西脇 常記（NISHIWAKI TSUNEKI）
 同志社大学・文学部・教授
 研究者番号：50108966

研究成果の概要：

ベルリン・コレクションの版本データベース化ほか、目録の完成に向けての作業は現在最終段階である。その作業の中間的な報告として、西脇はこれを用いて「返還文書から見たトルファン仏典版本の概観」を作成した。視覚的側面を利用して版本理解を深めることをねらい、多くの図を載せたものである。藤枝氏や竺沙氏を始めとする、これまでの研究にはベルリン・コレクションはほとんど利用されていないので、10世紀以降のアジア世界における文化交流の考証に寄与するという、本研究の大目的に向かって一步を印したかと考える。作業の完了した時点では、目録の充実とそれを通じた研究の提示という二面において、新たな多くの研究に貢献できるはずである。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	570,000	3,970,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：中国仏教

1. 研究開始当初の背景

前世紀初め各国探検隊の持ち帰った中央アジアの膨大な史料は、それぞれの国で個々に研究されてきた。今日では、文献の電子化

にも後押しされ、それらは有機的・統括的な研究段階に進もうとしている。その中で、ドイツ隊将来のトルファン文書、特にその漢語文献の研究は順調とは言えなかった。理由の

第一は、受け入れ機関に中国学研究者が欠けていたこと。第二は、第二次大戦後、文書の大半が東側で管理され、西側研究者の利用が難しかったことである。

そうした中でも、何人かの日本人がこの漢語文献の重要性に着目しており、1960年代後半には、敦煌文書研究の第一人者、藤枝晃氏が、国交のない東ドイツで漢語仏典の目録作りに着手した。この事業はドイツと竜谷大学西域文化研究所との共同研究として現在も続いており、3冊の目録が出版されている。

1990年の東西ドイツの統一後、文書は広く公開され、代表者西脇はただちにとりかかった研究の一環として、2001年ドイツにおいて非仏典文書の目録を出版した（Tsuneki Nishiwaki: *Chinesische Texte vermischten Inhalts aus der Berliner Turfansammlung*, 2001 Franz Steiner Verlag, Stuttgart）。ここでトルファン漢語文書の全体は、仏典と非仏典の二分野でそれぞれの目録が整うことになり、文献の整理という研究の第1期はほぼ6割ほどが終了したことになった。以後は同定を進めることによって第1期、整理段階の完了を目指し、これと平行して、各文献の内容に迫る第2期の研究に進むことになった。

2. 研究の目的

トルファン漢語文書は、形態からは写本と版本に分けられるが、その扱いには差がある。写本の多くは、トルファンが中国文化の影響を受けた4世紀から六、七百年間の仏典で、紙・筆・字体等の特徴によって大きく四期に分類され、研究されてきた。

一方、版本の多くも仏典であり、宋代以降に中国やその周辺で印刷された大蔵経断片が大半であるが、写本のように分類されることもなく、研究は手薄であった。既存の3冊の漢語仏典断片目録でも、版本は一括りにさ

れており、版本の種別は3冊目にごく僅かに記されているだけである。

しかしこれは目録編者の怠慢ではない。2冊目が上梓された1985年ころまでは、大蔵経の版本研究は仏典目録からのもので、実物に触れての研究はまだほとんど行われなかったからである。1990年代のはじめに、山西省応県の仏宮寺木塔から出た、「まぼろしの大蔵経」である契丹蔵の幾巻かが整理されて図録とともに世に発表されてから（『応県木塔遼代秘蔵』、1991、文物出版社）、それは飛躍的に進んだ。従って2005年末に出来上がった3冊目の目録には、それらの研究成果が僅かではあるが取り入れられたのである。

近年の初期大蔵経版本研究、つまり宋から元の時代の大蔵経研究は竺沙雅章氏によって精力的に進められてきた。また藤枝氏は、出口常順コレクションの整理にも当たられた。このコレクションはイスタンブール図書館蔵のトルファン文書と出自を同じくし、ベルリン・トルファン・コレクションから第二次世界大戦前に分かれたものである。2005年には、その図版を伴った解説書『トルファン出土仏典の研究 高昌残影釈録』（法蔵館）が出版された。その中では宋一元における大蔵経を三系統に分ける竺沙氏の説に基づき解説がつけられている。

そこで本研究では、この両氏の成果を利用させていただき、従来ほとんど正面から扱われることのなかったこのコレクションの仏典版本に取り組むこととした。具体的には、現時点で可能なあらゆる分析を行い、同定に努力して、文献として正しく位置づけ、当該コレクションの研究進展に資すると同時に、これらを用いた研究の方向をさぐって、最終的には、10世紀以降のアジア世界における文化交流の考証に寄与したい。具体的には

- (1) ベルリン・トルファン・コレクションの漢語版本目録作成
- (2) 日本蔵トルファン文書版本目録作成

の二点を第一の目的とし、それぞれに含まれる資料について、現時点で可能なあらゆる分析を行い、同定に努力して、文献として正しく位置づけ、当該コレクションの研究進展に資する。第二の目的は、これらを用いた研究の方向をさぐって、10世紀以降のアジア世界における文化交流の考証に寄与することである。

3. 研究の方法

(1) まず既存の漢語仏典と漢語非仏典の4冊の目録から、版本断片を抽出し、同定に努めた。

目録の情報をもとに西脇はベルリンでそれらを実見し、宋から元の時代の大蔵経版本のうち、いかなるものに当たるかを決定した。その場で決定できないものは写真を入手して持ち帰り、帰国後、2人の研究分担者と討議して決定した。

(2) 次にインターネット上の情報から、版本断片を抽出し、同定に努めた。

3年間の科研期間の間に、漢語断片つまりCh(漢語文書)、Ch/U(表は漢語文書、裏はウイグル文書)、Ch/So(表は漢語文書、裏はソグド文書)の記号のついた断片すべての画像がインターネットを利用して見られるようになった。従って、印刷本を抜き出す作業は国内で多くの部分をすすめることができた。しかしながら、トルファン文書は大半が小断片のため、画像では詳細が不明なものを多く含んでいる。また土中から発見されたものが多く、幾枚も貼り付いたままで一枚ずつに剥がされない断片もあり、その重なりは画像では判別できない。これらも当然、現地での

の実見が必要であった。

(3) 上記(1)(2)によって、協力して同定をすすめる作業と平行して、研究者は各自、それらの版本と関わりあるテーマを選び、10世紀から14世紀のアジアにおける文化交流の諸相を研究した。

4. 研究成果

(1) ベルリン・トルファン・コレクションの漢語版本目録作成

ベルリン・コレクションの版本データベースは未完であるが、その作業の中間的な報告として、西脇はこれを用いて「返還文書から見たトルファン仏典版本の概観」を作成した。返還文書は戦後旧ソ連に没収され、東西ドイツ統一直前に旧東ドイツのライプチヒを経由して西ベルリンのダーレム・インド美術館に返還された二百数十枚の漢語断片である。その内訳は

写本仏典(仏教関係)	236点
版本仏典	18点
俗文書	7点

である。仏典が95%を占めていることは、6-7千枚のコレクション全体に占める仏典の比率と一致する。そこでこの返還文書をコレクション全体の縮図と考え、そこに含まれる版本断片、およびそれと関わりのある版本断片を適宜引き、コレクションの版本全体についての概観を述べた。藤枝氏や竺沙氏を始めとする、これまでの研究にはベルリン・コレクションはほとんど利用されていないので、10世紀以降のアジア世界における文化交流の考証に寄与するという本研究の大目的に向かっても、一歩を印したかと考える。

またこの目録作成作業は科研終了後もつづけられ、ベルリンの目録シリーズの1冊「ベルリン・トルファン・コレクション漢語版本目録」(ドイツ語版)として、数年の間

に出版されることが決定している。これにはかつて同シリーズの非仏典目録の作成を担当した西脇と Wittern の両人があたる。

(2) 日本蔵トルファン文書版本目録作成

梶浦の手がける静嘉堂文庫所蔵の仏典目録については、当面の目的であった版本部分はほぼ終わった。しかし、同文庫の写本と一括して公開した方が、研究者に資するところは大きいと考え、写本同定の作業を続けている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9件)

- ① Tsuneki Nishiwaki (西脇常記) *Besuche in Berlin – Verdienste eines japanischen Gelehrten aus der Zeit vor dem 2. Krieg in Zeitschrift der Deutschen Morgenlandischen Gesellschaft* 有 Band 158–Heft2 p389-400
- ② 西脇常記 ベルリン・トルファン・コレクションの唯識関係新資料 『文化史学』 有 64号 2008年 143-154頁
- ③ 西脇常記 出口コレクションの一断片によせて 『立命館文学』 無 598号 2007年 254-261頁
- ④ 西脇常記 劉晟撰「妙法蓮華経玄賛会古通今新抄序」について 『文化史学』 有 63号 2007年 143-154頁
- ⑤ 西脇常記 『佛母経』小論 クリステアン・ウイッテルン/石立善編『東アジアの宗教と文化』 無 2007年 23-53頁
- ⑥ Christian Wittern(ウイッテルン・クリステイアン) *Patterns of Variation: The Textual Sources of the Chinese Buddhist Canon as Seen through the CBETA Edition*、Christian Wittern, *Essays on East Asian Religion and Culture*,

Christian Wittern Edited by Christian Wittern and Shi Lishan 無 2007 p209-232

⑦ Christian Wittern(ウイッテルン・クリステイアン) *Entrance Through the Scriptures: Catalogues and Electronic Text as a New Gate to the Buddhist Tradition* 中華佛學學報 有 Vol. 20 2007 p413-429.

⑧ 梶浦晋 新刊紹介《台東区立書道博物館所蔵中村不折舊藏禹域墨書集成》 有 『敦煌吐魯番研究』 第十卷 2007年 414-417頁

⑨ Tsuneki Nishiwaki (西脇常記) *Zum Fomujing 佛母経 (Sūtra der Mutter des Buddha)* *Acta Orientalia Hungarica* 有 Bd. 59(1) 2006年 29-46

[学会発表] (計 2件)

① 梶浦晋 日本的漢文大蔵経収蔵及其特色—以刊本大蔵経爲中心— 漢文大蔵経国際学術研討会 2007年9月18日 上海師範大学

② Christian Wittern(ウイッテルン・クリステイアン) *Zen Texts as 'Public' Documents: Zen Rhetoric in a Diachronic and Comparative Perspective* 2008年8月27日 Uni. Oslo

[図書] (計 2件)

① 西脇常記編 自費出版 続ベルリン・トルファン・コレクション漢語断片研究 2009年 113頁

② 西脇常記 自費出版 イスタンブール大学図書館所蔵トルファン出土漢語断片研究 2007年 98頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西脇 常記 (NISHIWAKI TSUNEKI)

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：50108966

(2) 研究分担者

なし

(3)連携研究者

ウイツテルン クリステイアン

(WITTERN, CHRISTIAN)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：20333560

梶浦 晋 (KAJIURA SUSUMU)

京都大学・人文科学研究所・助手

研究者番号：80293950